

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-85036

(43) 公開日 平成10年(1998) 4月7日

(51) Int.Cl.⁶

A 4 5 D 34/04

識別記号

5 1 5

F I

A 4 5 D 34/04

5 1 5 A

5 1 5 Z

審査請求 有 請求項の数11 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平9-241586

(22) 出願日 平成9年(1997) 9月5日

(31) 優先権主張番号 9 6 1 1 0 3 1

(32) 優先日 1996年9月10日

(33) 優先権主張国 フランス (F R)

(71) 出願人 391023932

ロレアル

LOREAL

フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14

(72) 発明者 ジャンールイ・アッシュ・ゲレ

フランス・75018・パリ・リュ・エジェシ

ップ・モロー・15

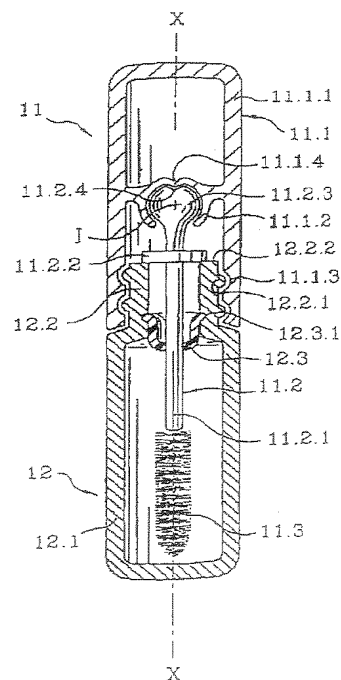
(74) 代理人 弁理士 志賀 正武 (外1名)

(54) 【発明の名称】 メークアップまたはケア製品用アプリケーター

(57) 【要約】

【課題】 メークアップ操作の範囲が狭いこと、リザーバにロッドを再挿入しにくいこと、リザーバの縁に製品が残ること等の従来のアプリケーターにおける欠点を解消すること。

【解決手段】 メークアップまたはケア製品を含有可能なリザーバ(12)；リザーバを閉鎖するための着脱自在で軸を有するキャップ(11)；第1端と第2端とを有し、キャップに取付られたロッド(11.2.1)；ロッドの第1端に設けられた適用部材(11.3)を具備し、ロッドがその第2端を介してキャップに取付られており、キャップ上へのロッドの取り付けが、キャップの軸に対してロッドが角変位可能である点(I)を中心とした関節部を具備し、前記角変位が90°以下の最大値を有する、メークアップまたはケア製品用アプリケーターが提供される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 メークアップまたはケア製品を含有可能なリザーバ(12)と；該リザーバを封止するための着脱自在で、軸を有するキャップ(11；21；31')と；第1端部と第2端部とを有し、キャップに取り付けられたロッド(11.2.1；21.2.1)と；ロッドの第1端部に設けられた適用部材(11.3；21.3；31.3')とを具備し、該ロッドはロッドの第2端部を介してキャップに取り付けられている、メークアップまたはケア製品用アプリケーションにおいて、キャップ上へのロッドの取り付けが、キャップの軸に対してロッドが角変位可能である点(I)を中心とした関節部を具備し、前記角変位が90°以下の最大値を有することを特徴とするメークアップまたはケア製品用アプリケーション。

【請求項2】 関節部がキャップ(11；21)の内部に配されていることを特徴とする、請求項1に記載のアプリケーション。

【請求項3】 関節部には少なくとも1つのブレイキ部(11.1.4；11.2.4)が具備されていることを特徴とする、請求項1または2に記載のアプリケーション。

【請求項4】 ブレイキ部が、ボールジョイント(11.2.3)内に配された円形空隙部(11.2.4)と保持部材(11.1.4)とからなり、該保持部材は前記空隙部(11.2.4)と相補的であり、中空ハウジング(11.1.2)内に配されていることを特徴とする、請求項3に記載のアプリケーション。

【請求項5】 関節部が、ロッド(11.2.1；21.2.1)の第2端部に取り付けられた球形ボールジョイント(11.2.3；21.2.3)と、ボールジョイント(11.2.3；21.2.3)と相補的であり、キャップ(11；21)内に配された中空ハウジング(11.1.2；21.1.2)とからなることを特徴とする、請求項1ないし4のいずれか1項に記載のアプリケーション。

【請求項6】 拭い部材(12.3；32.3')を具備することを特徴とする、請求項1ないし5のいずれか1項に記載のアプリケーション。

【請求項7】 封止部材(11.2.2)を具備することを特徴とする、請求項1ないし6のいずれか1項に記載のアプリケーション。

【請求項8】 該封止部材がディスク形状の環状ガスケットからなることを特徴とする、請求項1ないし7のいずれか1項に記載のアプリケーション。

【請求項9】 封止部材(11.2.2)が円錐からなることを特徴とする、請求項1ないし8のいずれか1項に記載のアプリケーション。

【請求項10】 キャップ(21)の軸X-X'に対する、ロッド(21.2.1)の角変位の大きさが、40°以

下に制限されることを特徴とする、請求項1ないし9のいずれか1項に記載のアプリケーション。

【請求項11】 適用部材が、硬いブラシまたは細いブラシまたは発泡端部またはスパチラまたはキャピラリーロッドであることを特徴とする、請求項1ないし10のいずれか1項に記載のアプリケーション。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、メークアップまたはケア製品用アプリケーションに関する。このタイプのアプリケーションはたとえば、マスカラとしても知られている増強製品(intensifying product)を、まつげに適用したり、アイライナー、アイシャドウ、ネイルケアクリーム、ネイルエナメル、リップスティックなどを適用するのに使用される。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】メークアップまたはケア製品用キャピラリーアプリケーションは一般的には、適用されるべき製品を含有するリザーバと該リザーバを封止するための着脱自在なキャップを具備する。

【0003】ロッドはロッドの1端部を介してキャップに取り付けられ、ロッドの他端部にはたとえば硬いブラシまたは細いブラシなどの製品を適用するための部材が設けられている。リザーバがキャップで封止されている状態では、適用部材は、リザーバ内に突っ込まれている。キャップとロッドをリザーバから取り出すと、適用可能である一定量の製品が硬いブラシまたは細いブラシに取り出されてくる。

【0004】慣例上、製品の適用部材はロッドと一直線上に設けられており、ロッド自体もキャップと一直線上に設けられている。この強直した形状ではしばしば、アセンブリ全体を巧みに操作するのが困難であり、特に、目およびまぶたのコーナーにメークアップする場合、または右利きの人が左目をメークアップする場合、または上唇をメークアップする場合、ユーザーは腕を無理にねじらなければならない。さらに、非人間工学的な状態下での操作によって、製品をこぼしたり、適用がかすれたりしがちになる。

【0005】メークアップ製品用アプリケーションを開ける場合、ユーザーは、手を環状で非直線的に動かすものである。この自然な動作によって、適用部材が設けられたロッドは、リザーバの軸に対してゼロではない角度(鋭角)でリザーバから取り出される。このような状態を図3に示す。

【0006】したがって、適用部材は拭い装置を通過すると、全面において均一にふきとられないことになる。このことは特に、拭いが本来、あまり効果的でない、凸形状を有する適用部材の場合に重要なことである。

【0007】最後に、適用部材をリザーバから出す時、

適用部材は傾き、リザーバのへりを汚してしまう。

【0008】適用部材が設けられたロッドが、キャップと適用部材との距離を減少させるために、ヒンジによって互いに結合する2つのハーフロッドからなる、メイクアップアプリケーションが既に知られている。しかしながらこれには多くの欠点がある。

【0009】すなわち、ヒンジの動作によって、適用部材が設けられたハーフロッドが、キャップが設けられたハーフロッドに対して傾いた場合、キャップを保持するユーザーの手と適用部材との距離が、ヒンジなしのアプリケーションの場合よりも短くなる。これによって、メイクアップ操作の範囲が狭く、操作がしにくくなる。

【0010】さらに、中央ヒンジに対して傾いた位置にある場合、リザーバにロッドを再挿入するのが困難となり、ロッドが加圧下、折れてしまう傾向にある。

【0011】さらに、リザーバが拭い部材を具備する場合、2つのハーフロッド間に位置するヒンジが拭い部材を通過するロッドの通路を邪魔し、製品がヒンジの間隙に蓄積され、汚れの原因となる。さらに、このタイプのヒンジは、アプリケーションアセンブリにおいて、全体的に壊れやすい部分である。

【0012】最後に、ロッドの中程にヒンジを有するスモールサイズのメイクアップアプリケーションは、このタイプのヒンジが必然的に有する大きさのために、製造不可能である。実際、スモールサイズのアプリケーションは、持ち運びが容易でバッグ内でほとんどスペースを取らないため、ユーザーには評価されるものである。

【0013】FR-A-2701196は、リザーバと、リザーバを封止するための着脱自在なキャップと、キャップに取り付けられたロッドの端部に設けられた適用部材と、キャップの軸に対して関節的につながったグリップとを具備し、該グリップが、スモールアーチからなり、該スモールアーチの大きさは、グリップを折り畳んだ位置でスモールアーチがリザーバを取り囲むような大きさである、メイクアップアプリケーションを開示する。

【0014】このタイプのアプリケーションは、ヒンジによって結合した2つのハーフロッドを具備するアプリケーションの場合と同様の欠点（メイクアップ操作の範囲が狭いこと、リザーバにロッドを再挿入しにくいこと）を有する。

【0015】US-4,370,989は、リザーバと、リザーバを封止するための着脱自在なキャップと、キャップに取り付けられたロッドの端部に設けられた適用部材とを具備し、該ロッドは軸に対して関節手段によってキャップに連結している、メイクアップアプリケーションを開示する。このタイプの関節手段は、キャップに対してロッドの向きを自由にすることができず、適用部材が均一にふきとれないものである。また、このタイプのアプリケーションを用いると、アプリケーションを用いる度に、リザーバのへりに製品が残ることが見受けられる。

【0016】

【課題を解決するための手段】驚くべきことに、本出願人は、以下に示すメイクアップまたはケア製品用アプリケーションによって、従来技術の欠点を解消した。すなわち、メイクアップまたはケア製品を含有可能なリザーバと；該リザーバを封止するための着脱自在で、軸を有するキャップと；第1端部と第2端部とを有するロッドと；ロッドの第1端部に設けられた適用部材とを具備し、該ロッドはロッドの第2端部を介してキャップに取り付けられたメイクアップまたはケア製品用アプリケーションにおいて、キャップ上へのロッドの取り付けが、キャップの軸に対してロッドが角変位可能である点を中心とした関節部を具備し、前記角変位が90°以下の最大値を有することを特徴とするメイクアップまたはケア製品用アプリケーションである。

【0017】該関節部は好ましくはキャップ内部に位置する。キャップに対するロッドの角変位は、キャップのへりによって、またはキャップ内の保持システムによって制限可能である。

【0018】点中心の関節部は、たとえば、球状ボールジョイントシステムからなる。該関節部によって、キャップに対して3次元にロッドを方向付けることが可能であり、アセンブリ全体に、より柔軟性と適用可能性を付与するものである。該関節部によって特に、ユーザーは、より容易に、束縛されることなく、メイクアップすることが困難な顔の部分に到達することができる。キャップに対してロッドが自由に方向づけられるからである。適用部材はリザーバからまっすぐ取り出せ、したがって、均一にふきとられて、リザーバのへりを汚すこともない。

【0019】ボールジョイントシステムおよび／またはキャップのへりによって、キャップに対してのロッドの傾きが制限される。したがって、ヒンジによって結合した2つのハーフロッドまたはロッドおよび軸に対して関節的なグリップを具備する従来の装置の場合にしばしば見受けられた加圧によるロッドの破損もなく、ユーザーは、適用部材、ロッド、およびキャップからなる装置にかなりの圧力をかけることが可能である。

【0020】ユーザーの手と適用部材との距離は傾きによって、多少しか減少しないため、したがって、非関節タイプのロッド装置と同様にメイクアップ操作の範囲を広くすることが可能である。

【0021】ロッドは困難なくリザーバに再挿入可能であり、ロッドがふき取り装置を通過する際、汚れが生じることなく、拭い装置に引っかかることもない。ロッドがリザーバに再挿入される度に、ロッドは、キャップの軸上に再配置される。

【0022】関節部がユーザーの指の間に位置している時、ユーザーは該関節部をより良好に制御できる。関節部には好ましくは、少なくとも1つのプレーキ部が設け

られている。

【0023】さらに、このタイプの関節部は、アプリケーションの回し開け動作に対して相補的なものである。すなわち、ロッドがリザーバから取り出される場合、キャップがロッドに対して曲がってもロッドは真直ぐのままである。

【0024】適用部材は、当業者に知られている種々のタイプのものでもよく、たとえば、硬いブラシ、細いブラシ、任意にけば立った発泡端部、スパチラ、またはキャピラリーロッドであってもよい。

【0025】本発明がより容易に理解されるように、以下に、図とともに実施態様を挙げて詳細な説明をする。

【0026】

【発明の実施の形態】図1に示すマスカラアプリケーションは、リザーバ(12)と、キャップ(11.1)、ロッド(11.2)、および硬いブラシ(11.3)を具備する適用装置(11)とを具備する。

【0027】周知のように、リザーバは円筒体(12.1)からなるが、適用されるべき製品に応じて他の種々の形態でもよい。リザーバには、その上部に、ねじ部(12.2.1)が設けられ端部が台(12.2.2)になっている首部(12.2)が形成されている。

【0028】リザーバ内には、首部内の環状溝と相互作用する玉縁部(12.3.1)によって、首部(12.2)に取り付けられた拭い部材(12.3)がある。硬いブラシ(11.3)がロッド(11.2.1)の第1端部に取り付けられている。

【0029】該ロッド(11.2)は、実際のロッド(11.2.1)と、封止部材(11.2.2)と、ロッド(11.2.1)の第2端部に取り付けられた、実質的に球状のボールジョイント(11.2.3)とからなる。ボールジョイントは、小さい円形の空隙部(11.2.4)を具備する。

【0030】封止部材(11.2.2)は、ロッド(11.2.1)が貫通した、ディスク形状の環状ガスケットからなる。該ガスケットは、ボールジョイント(11.2.3)の近傍に位置する。

【0031】図1では、封止部材は首部(12.2)の自由端部(12.2.2)に対して加圧するフレキシブルな材料から形成されたディスクである。しかしながら、封止部材は、当業者に公知の他の手段からなってもよく、たとえば、ロッド(11.2.1)の周囲にはめられた変形自在の材料から形成された円錐であってもよい。

【0032】封止部材は、周知の方法で、キャップ(11.1)に取り付けられてもよい。キャップ(11.1)は、リザーバ(12)の首部(12.2)のねじ部(12.2.1)に相補的なねじ部(11.1.3)と、ボールジョイント(11.2.3)と相補的である中空ハウジング(11.1.2)とを具備する円筒体

(11.1.1)からなる。中空ハウジング(11.1.2)は、空隙部(11.2.4)と相補的な保持部材(11.1.4)を具備する。

【0033】保持部材(11.1.4)および空隙部(11.2.4)は共に、関節点(I)中心のロッド(11.2.1)の動作に対するブレーキ部を形成する。

【0034】図1に示すように、アプリケーションが封止位置にある場合、硬いブラシ(11.3)、ロッド(11.2.1)、およびキャップ(11.1)は中央軸X-Xに沿って一直線上にある。硬いブラシ(11.3)およびブラシに隣接するロッド(11.2.1)の部分は、リザーバの内部に位置する。ガスケット(11.2.2)は、首部(12.2)の自由端部(12.2.2)に搭載されている。キャップ(11.1)はリザーバ(12)の首部(12.2)に漏れが無いように螺合している。

【0035】適用部材(11.3)がリザーバから取り出されると、硬いブラシは拭い装置(12.3)を通過し、ボールジョイント(11.2.3)を中心にしてロッド(11.2.1)の傾きを利用して、または、真直ぐな位置で、まつげにメイクアップを施す準備ができて

いる。

【0036】ボールジョイントの傾きは、図1に示すような形態で、空隙部(11.2.4)に収まっている保持部材(11.1.4)によって制限される。

【0037】メイクアップアプリケーションのリザーバは図示していないが、図2に示す適用装置(21)は、図1に示す装置とは、硬いブラシ(11.3)の代わりに細いブラシ(21.3)である点で相違する。

【0038】図2では、ボールジョイント(21.2.3)は、中空ハウジング(21.1.2)内に中心点(I)に対して枢軸的に設けられており、ロッド(21.2.1)と細いブラシ(21.3)は、キャップの中心軸X-Xに対して、角度 α を形成する軸Y-Yと一直線上にある。

【0039】中空ハウジング(21.1.2)は、ロッド(21.2.1)の角変位を制限する環状縁(21.1.2.1)を具備する。これによって、角度 α をこのましくは 20° よりも小さい値に制限し、軸(X-X)に対するロッドの角変位を 40° 以下に制限するものである。

【0040】角変位はまた、キャップ(21.1)の開口部に位置する端部(21.1.3)によっても制限可能であり、該関節部はキャップ内に位置するものである。該装置は特に、ネイルエナメル組成物を適用するためのものである。

【0041】ユーザーが、本発明による適用装置を使用する際、ユーザーは、適用装置をを直線位置(適用部材、ロッド、およびキャップが同軸的に配置している)

または傾斜位置で使用可能である。ユーザーがキャップに対してロッドを傾けると、多くの適用可能な製品が、中心軸に対してキャップを回転させることによって得られる。

【0042】開口動作の特徴を例解するために、図2および図3の適用装置は必須要素に限定して開示した。

【0043】図3は、従来技術によるメイクアップ適用装置の開口したところを示す。該メイクアップ装置は、首部(32.2)の内端部に拭い装置(32.3)を具備するリザーバ(32)と、適用装置(31)を具備する

【0044】ユーザーは、ロッド(31.2)が第1端部を経由してスリーブ取り付けされたキャップ(31.1)を指で保持する。この場合、適用部材は硬いブラシであり、ロッドおよび適用部材は1つの同軸X-Xに同軸的に配置している。

【0045】ユーザーが適用装置(31)をリザーバ(32)から取り出す場合は、キャップを曲線(C)で表わされる環状に動かす。ここで、適用装置とリザーバは、動作中、種々に変動する角 β を形成することになる。硬いブラシにおいては、その一端では多量の製品がふき取られ、他端ではほとんど製品がふきとられない。ブラシは、首部のへり(32.2)に対して擦られ、したがって該へりを汚してしまうこととなる。

【0046】一方、図4に示す装置を開口する際には、キャップ(31.1')はロッド(31.2')と硬いブラシ(31.3')に対して枢軸的に配されているが、ロッド(31.2')と硬いブラシ(31.3')*

*は、リザーバ(32')の軸に対しては同軸上に配置している。このように、硬いブラシは、拭い装置(32.3')によって均一にふき取られ、首部(32.2')のへりを汚すことはない。

【図面の簡単な説明】

【図1】 多方向性ボールジョイントを具備した、本発明の1つの形態によるマスカラアプリータの、封止位置での長手方向の断面図である。

【図2】 多方向性ボールジョイントを具備した、本発明の変形例によるネイルエナメルアプリータの、傾いた位置での長手方向の断面図である。

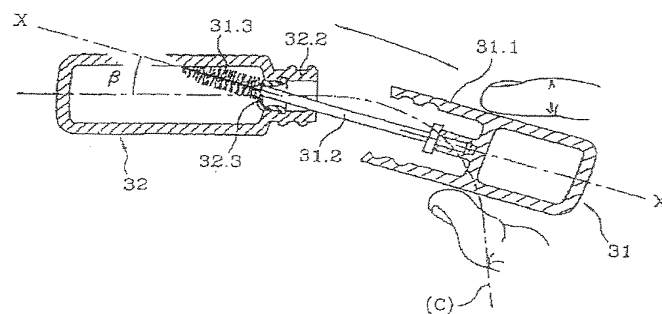
【図3】 従来技術によるメイクアップアプリータの、開口位置での長手方向の断面図である。

【図4】 本発明によるメイクアップアプリータの、開口位置での長手方向の断面図である。

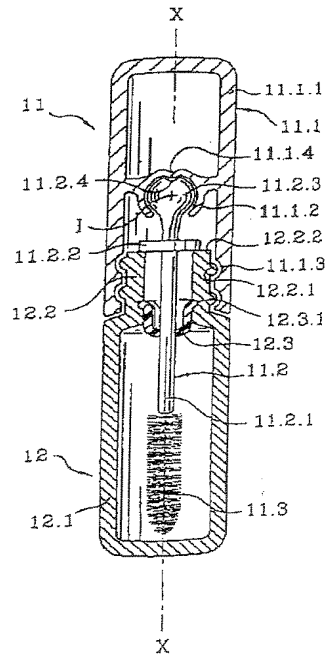
【符号の説明】

11; 21; 31' キャップ
11.1.2; 21.1.2 中空ハウジング
11.1.4; 11.2.4 ブレーキ部
11.1.4 保持部材
11.2.1; 21.2.1 ロッド
11.2.2 封止部材
11.2.3; 21.2.3 ボールジョイント
11.2.4 円形空隙部
11.3; 21.3; 31.3' 適用部材
12 リザーバ
12.3; 32.3' 拭い部材

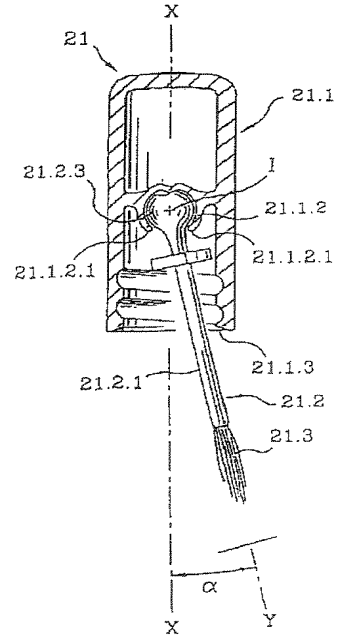
【図3】



【図1】



【図2】



【図4】

